

(4) 後川中学校

学 校 長 田 辺 長 美

校内研究代表者 松下 佳那

1. 研究主題

「自ら学び、自ら考え、主体的に行動できる生徒の育成

～キャリア教育の視点で行う授業改善～」

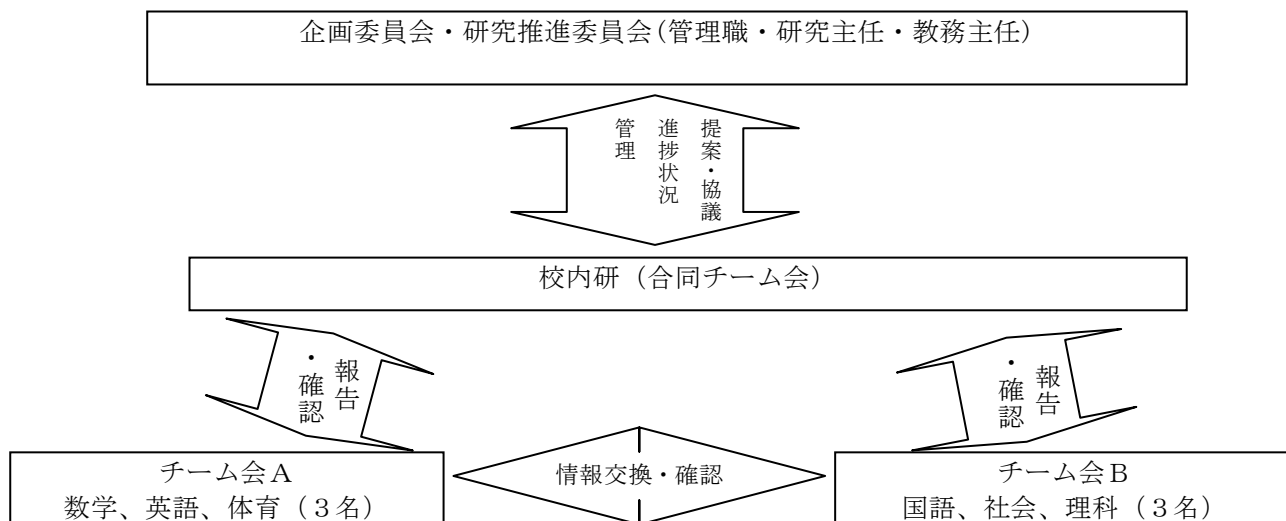
2. 研究主題設定の理由

本校の課題は「主体性」と「表現力」。良さは、学年を越えて仲が良く、見通しがもてることには一生懸命取り組もうとするまじめさ。自尊感情が大きく向上し、どのような場面でも協働できる生徒集団に育っている。そこで、『見通しをもつ力』と『やりぬく力』を高めることで主体性を高めることを目指しサブタイトルを設定した。実態や課題を把握させ、目標を明確にもち（目標設定）、どうすれば目標を達成できるかの見通しをもち（計画）、最後までねばり強くやり通す（実行）力をどの生徒にも付けていきたいと考える。小中合同でキャリア教育を柱として研究を推進することで、小中連携もさらに強まると期待される。

3. 研究の進め方と方法

- (1) 校内研修日を水曜日に定めて、年間計画に沿って研修をする。なお、第3週の水曜日は職員会とする。
- (2) 教材研究のため、自己研究の日を月に1回程度設定する。
- (3) 全校研究授業は1人1本とし、5教科は改善プランの授業公開と兼ねる。指導主事を招聘し、チーム会での指導案検討と模擬授業を経て、研究授業と協議において助言指導をいただき、全員が授業改善につなげられるようにする。

《 研究推進組織 》



4. 具体的取り組み

(1) 授業改善＝学力向上

- ① 研究授業 事前（指導案検討会⇒模擬授業）⇒事後（協議・各自の授業改善）
- | | | |
|-----|----------|------------------|
| 第1回 | 5/20 (水) | 2年理科「化学変化と原子・分子」 |
| 第2回 | 6/10 (水) | 全校体育「器械（マット）運動」 |
| 第3回 | 7/ 6 (月) | 3年社会「基本的人権の尊重」 |

第4回 10/9(金) 2年英語「A Work Experience Program」

第5回 10/21(水) 2年数学「1次関数」

第6回 11/25(水) 1年国語「幻の魚は生きていた」

②帯タイム・7時間目

- ・1昨年度までの7時間目(全学年合同で30分間の自主学タイム)を各学年単位の30分の後川タイムに変更。期末テスト週間は全学年が7時間目(50分)を設定。3年生は11月第3週から週に4日の7時間目(50分)の授業を実施。

③合同チーム会

- ・1学期の総括を受け、課題克服を目指すチーム会での意見交流を毎月実施。

④自己研究

- ・年間7回の自己研究を実施し、それぞれの課題や研究に向けての取組。

⑤その他

- ・専門部 昨年度から専門部を「まな部」「こころ部」の2つに統合・再編成し、教員だけではなく、生徒にも学力向上とそれを支える仲間づくりや基本的な生活習慣、環境整備について考えさせる。

(2) 仲間づくり

①生徒会活動

- ・生徒会主催の全校レク(意見箱の活用)
- ・こころ部でのバースデーサプライズ、クリスマスレク

②人権集会

- ・学級での話し合い⇒全校での発表、人権作文、SCによるエクササイズ

③その他

- ・総合的な学習の時間(ライトアップ・霜月祭)

(3) 小中連携

①合同校内研・参観週間

- ・年3回の小中合同校内研を実施し、夏にはオンデマンドを活用して全員でキャリア教育について研修した。研究授業の日程を共有し、相互参観を行った。秋の合同参観週間や霜月祭での交流を図った。

②系統表・キャリアシートの活用

- ・「キャリアシート とさっ子! 夢・志シート」をもとに昨年作成された小中9年間で育てたいキャリアに関する能力を系統表にまとめ、小中の教員全員で再協議した。小中ともにキャリアシートは年間計画に位置付けて活用するようにし、どのシートを次年度に引き継ぐかについても、大枠を話し合った。

5. 今年度の成果と課題

(1) 成果

①評価指標での数値結果

○授業力チェックシートの平均 3.5

○学習状況アンケートの全項目平均 3.1 肯定評価 77.0%

②考察

- ・今年度の授業改善テーマは「対話的な活動」であり、少人数での「対話」を目指し、研究授業ごとに検証し、改善プランでの助言等も活かしながら、『自ら学び、自ら考え、主体的に行動できる生徒の育成を』を追究した。研究授業後に行う授業力チェックシートの全教員の平均

も 87.5%の肯定評価である。常に「対話的であること」を念頭に置いて授業が行われ、「お互いの考えを工夫しながら学び合う」姿勢や工夫が定着していると考えられる。また、生徒においても授業だけではなく各行事でも振り返りの時間を確保し、生徒自身に書かせたり発表させたりした結果、学習状況アンケートにおいて、学んだことを次に活かそうとする「汎用性」が 88.9%、「対話」も 83.3%の結果だった。

(2) 課題

①評価指標での数値結果

○キャリア形成に関するアンケートの全項目平均 3.3

○授業アンケート「この教科の授業は好きか」 平均 3.5

②考察

- ・キャリア形成に関しては、基本的な生活習慣の身の回りの整理整頓が特に弱い。課題対応能力での「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」、あるいは自尊心の「私は、周囲の人の役に立っている」の項目に課題が見られる。
- ・授業アンケートの中で一番低い項目が「この教科の授業は好きか」である。苦手意識のある生徒が主体的に活動できるような授業での取組を仕組む必要がある。
- ・学習状況アンケートの本校独自の項目である「家庭学習」の自主学習ノートの工夫については、66.7%と低い。

6. 来年度に向けて

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の追究

①単元ゴールシートの継続

- ・生徒に興味関心をもたせるための課題設定の工夫
- ・付きたい力の検証や付けた力の活用を図る単元ゴールの明確化
- ・自分の考えを表現し、次の学びにつなげるための振り返りを位置付けた単元構想

②基礎基本の定着と活用力の向上

- ・基礎基本の定着を計画的に図ることと、生活に関連付けて活用させることで、学習の必然性を感じさせる。

③トライ&エラーへの挑戦

- ・生徒に任せきる
- ・失敗から学ばせる

④自分の考えを相手にわかりやすく伝える力の育成

- ・社会で通用する力を身に付けさせるため、利岡小・後川中キャリア教育システム表をもとに正しい言葉遣い・態度・構成等を意識させた発表力（表現力）を付ける。

⑤単元配列表（カリキュラムマネジメント）の作成

- ・総合的な学習の時間を軸に、学校教育全体で効果的に生徒の学びをつなげる。

(2) 効果的な家庭学習の取組

- ・授業⇒帯タイム（7時間目）⇒家庭学習のサイクル化の仕組みを全体で共有しながら、生徒にとって自ら学ぶ主体的な学習になるようにする。
- ・家庭学習の量の適正化を図り、より効果的な取組にしていく。

(3) 小中連携

- ・キャリア教育システム表を軸に、それぞれの学校での取組の成果と課題を共有し、小規模ならではの、きめ細かな見取りができる体制を整える。課題である規範意識は特に着目する。